

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 6 部門第 2 区分  
【発行日】平成 18 年 12 月 21 日 (2006.12.21)

【公開番号】特開 2006-308872 (P2006-308872A)  
【公開日】平成 18 年 11 月 9 日 (2006.11.9)  
【年通号数】公開・登録公報 2006-044  
【出願番号】特願 2005-131434 (P2005-131434)  
【国際特許分類】

**G 1 0 H 3/18 (2006.01)**

【F I】

G 1 0 H 3/18 C

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 10 月 17 日 (2006.10.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

弦楽器に取り付けられて弦の振動を電気信号に変換する変換装置において、  
前記弦楽器に接着層を介して取り付けられる圧電素子を含み、前記接着層の厚み方向中間部に、当該接着層と異なる材質の少なくとも一つの間層を設けたことを特徴とする変換装置。

【請求項 2】

前記接着層は、ブチルゴムを用いて構成されている一方、前記中間層は、木材を用いて構成されていることを特徴とする請求項 1 記載の変換装置。

【請求項 3】

前記請求項 1 又は 2 記載の変換装置を備えたことを特徴とする弦楽器。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】変換装置及びこれを用いた弦楽器

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 1】

本発明は、変換装置及びこれを用いた弦楽器に係り、更に詳しくは、弦楽器におけるボディの振動を電気信号に変換することができる変換装置及びこれを用いた弦楽器に関する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0004】

## 〔発明の目的〕

本発明は、このような不都合に着目して案出されたものであり、その目的は、圧電素子で変換された電気信号により再生される音の音質を向上させることができる変換装置及びこれを用いた弦楽器を提供することにある。

## 【手続補正5】

## 【補正対象書類名】明細書

## 【補正対象項目名】0005

## 【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0005】

前記目的を達成するため、本発明は、弦楽器に取り付けられて弦の振動を電気信号に変換する変換装置又はこれを用いた弦楽器において、

前記弦楽器に接着層を介して取り付けられる圧電素子を含み、前記接着層の厚み方向中間部に、当該接着層と異なる材質の少なくとも一つの間層を設ける、という構成が採用されている。